



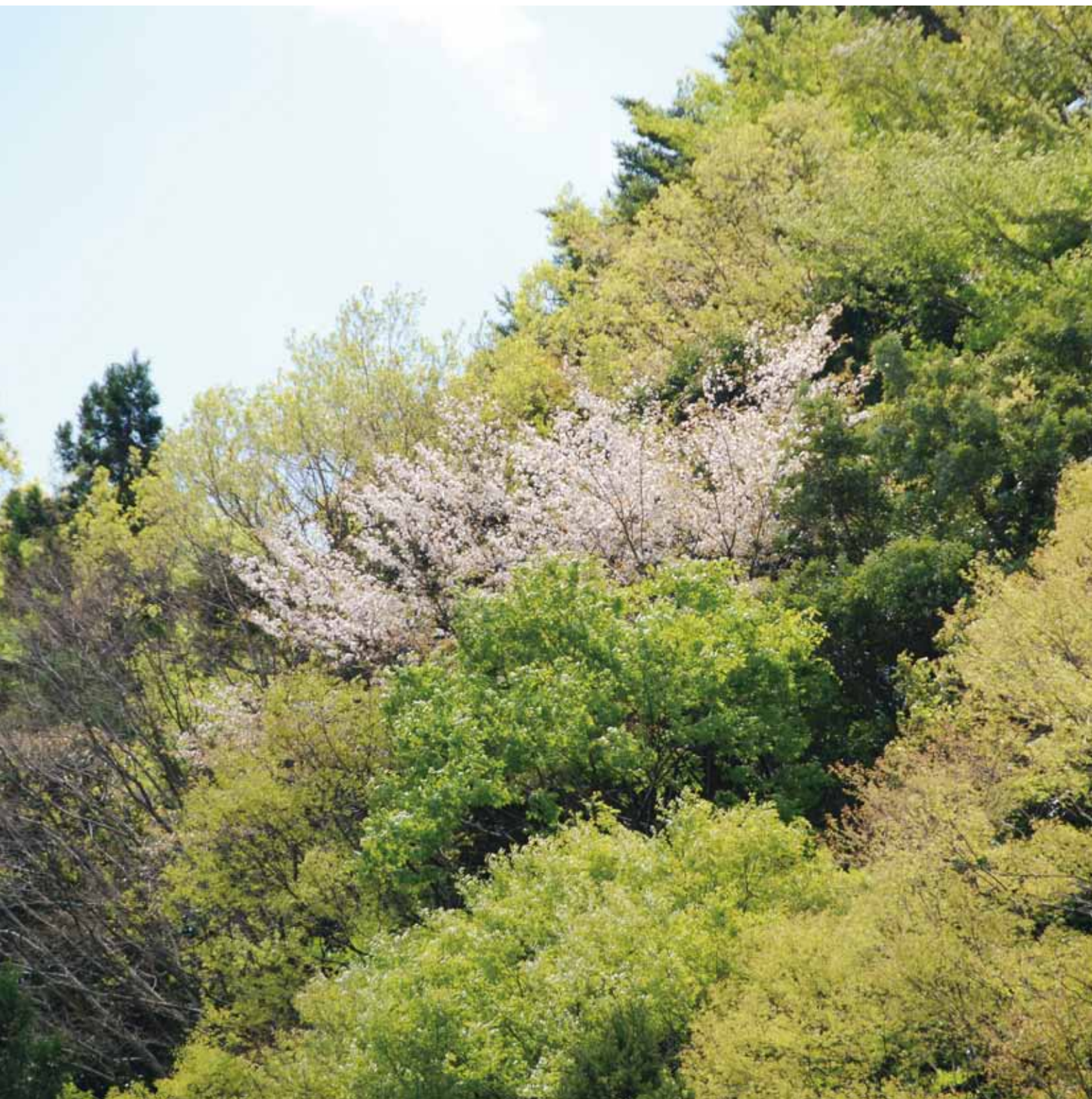
- RINYA -

3

2022  
No.180

特集

森の春を感じる





詳細については「日本美しの森 お薦め国有林」のウェブサイト  
([https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu\\_rinya/kokumin\\_mori/katuyo/reku/rekumori/](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/))をご覧ください。



にっぽん  
「日本美しの森 お薦め国有林」のご紹介

## はやま 葉山風景林 (山形県寒河江市・村山市・大蔵村)

### 【概要】

葉山風景林は、出羽三山の東側に位置し、風景林内にある葉山(1,462 m)は麓の村山市中心部からのアクセスもよく、市民に親しまれています。山頂部には馬蹄形の爆裂火口が残るなど特徴的な地形を有し、山麓から山頂付近までブナを主体とする天然林が広がっています。

葉山はかつて修験道の山として知られ、江戸時代までは羽黒山、月山とともに出羽三山<sup>(注)</sup>の一つとして数えられ、東北地方一円で信仰を集めていたといわれています。

(注) 一般的に出羽三山は、羽黒山、月山、湯殿山。

### 【見どころ】

葉山の山頂に到る登山道には、道沿いに湧き水があり、ブナの森林や稜線付近のお花畑を歩くことができる。樹齢数百年とされるドウダンツツジ(愛称「百万ドルのドウダン」)を見られる岩野コースなど6つの登山道があり、家族連れでも気軽に日帰り登山を楽しむことができます。

山頂からの展望は素晴らしく、山形県内にある日本百名山の6座(月山・大朝日岳・鳥海山・蔵王山・飯豊山・吾妻山)をはじめ、眼下には最上川が流れる広大な村山盆地を一望することができます。また、稜線付近には草原や池沼が広がり、ミツガシワやシャクナゲなど様々な高山植物を間近に見ることができます。

### 【参考ウェブページ】

寒河江市ウェブサイト

<https://www.city.sagae.yamagata.jp/kanko/kanko/hayama.html>

大蔵村ウェブサイト

<http://www.vill.ohkura.yamagata.jp/tour/shizen/hayama/>

やまがたへの旅(山形県公式観光サイト)

[https://yamagatakanko.com/attractions/detail\\_31.html](https://yamagatakanko.com/attractions/detail_31.html)



### 【イベント情報】

例年6月頃に「葉山市民登山」が催されます。

登山コースや開催要領などは村山市ホームページをご覧ください。

[https://www.city.murayama.lg.jp/kurashi/sports\\_yoka/sports/hayamatozan.html](https://www.city.murayama.lg.jp/kurashi/sports_yoka/sports/hayamatozan.html)

### 【アクセス】

【公共交通機関の場合】

山形駅(JR左沢線:約20分)→寒河江駅(レンタカー・タクシー:約40分)→畑登山口

【車の場合】

山形自動車道 寒河江IC(国道112号外経路:約40分)→畑登山口(葉山市民荘駐車場24台(無料))

(登山口付近にある葉山市民荘にはトイレや休憩所あり)

(注)各登山コース、登山口へのアクセス道路が通行止めになっている場合がありますので事前にご確認下さい。



水田に写る葉山(逆さ葉山)



登山コース沿いで見られるブナ林



山頂付近に広がる池沼(とんぼ沼)一面に生えるミツガシワ



葉山山頂



3 2022  
No.180

## Contents

- 03 特集 森の春を感じる
- 08 TOPICS 01 ウッド・チェンジに向けた建築物木材利用促進協定の活用について
- 10 TOPICS 02 令和4年全国山火事予防運動
- 12 TOPICS 03 国際熱帯木材機関(ITTO)をめぐる動き～第57回理事会の開催、持続可能な木材利用の促進に向けたプロジェクト～
- 14 林業成長産業化地域創出モデル事業<sup>(注)</sup> 岐阜県郡上地域 郡上森林マネジメント協議会を核とした林業成長産業化の推進
- 16 国有林野事業の取組 赤谷プロジェクトにおける「赤谷の日」のサポーター活動について
- 18 TOPICS 04 「2022ミス日本みどりの女神」が誕生!

webアンケートにご協力をお願いします!

<https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/form/kouhou/202203.html>





特集

# 森の春を感じる

森林総合研究所フェロー・(一社) 日本森林技術協会  
河原 孝行



新型コロナウイルス騒動でこの2年ほど窮屈な思いをされてきたと思いません。人混みのない野山の散策は、新型コロナウイルス感染防止の下で行える素晴らしいレクリエーションです。古今東西を問わず、植物にとって春は1年の始まりの季節であり、生命の息吹を感じ、自然とうぎうぎしてきます。ルーペや双眼鏡があると、これまで見過ごしてきた生き物の新しい発見があるかも知れません。今回は春の散策で見つかる野草や野鳥の魅力についてご紹介します。



## 初春の植物を探して



暦では、節分の次の日、通常2月4日が立春で、この日から春が始まり、立夏（通常5月5日）の前日までが春となります。2月の頃は、まだまだ春の兆しを感じられないかも知れませんが、その中でも花を咲かせる植物があります。

セツブンソウ（写真1）は名前の通り、節分ごろから咲きだす花で、草丈が10〜20cmほどのキンポウゲ科の多年草です。本州の群馬県から山口県まで分布します。地面から直接出る葉（根出葉）と花の付く茎の上部から生じる茎葉の2種類の葉を持っていますが、どちらの葉も、葉



写真1：セツブンソウ



写真2：マンサク

脈や葉の縁が白っぽく、細く切れ込んでいるのが特徴です。花は2.5cmほどで、花茎の先に一つだけつきます。花弁のように見える白いものは実は萼で、5枚あります。内側に黄色い雄しべのように見えるものが本当の花弁です。寒い中ですが、ニホンミツバチやヒラタアブが花を訪れ、花粉を媒介してくれます。

マンサク（写真2）は、その名前が「まず咲く」に由来すると言われていたように、本土では在来の野生木の中では一番早く、1月末から3月にかけて咲きます。遠目から見ると、黄色くて細い花弁は錦糸卵が絡みついたようにも見えますが、前年の枝の側芽から3個ほどの花がまとまってついていることがわかります。よく見ると、それぞれの花弁の内側には雄しべの半分ほどの「何か」があり

ます。これは仮雄ずいと呼ばれており、雄しべが退化して薬（花粉を作り貯蔵している部分）がなくなり蜜腺になったものと考えられています。

丘陵や低山でよく見かけるクロモジの仲間には、ダンコウバイ、クロモジ、アブラチャンがあります。これらはいずれも2次林内に生育し、3月の中頃から黄色い花をつける雌雄異株の低木です。この中では、ダンコウバイが最も早く開花し、1週間ほど遅れてクロモジ、さらに遅れてアブラチャンが開花します。この時期は訪花昆虫も限られているため、送粉者という資源をうまく使い分けていると考えられます。季節の移ろいに隠された秘密に頭をひねるのも面白いですね。

## 春植物の春の営み



春先の短い期間だけ地上に現れ、花をつける植物があります。セツブンソウのほか、ニリンソウ、キクザキイチゲ、フクジュソウ、エンゴサク、カタクリ、バイモ、アマナなどが挙げられます。日本語では春植物と呼ばれていますが、英語ではスプリン

グ（春・エフェメラル（短命））と呼ばれています。エフェメラルとは、元はギリシャ語でカゲロウのことで、転じて、「短い命」はかないもの」の意となり、詩などにも短命の象徴として使われてきました。

しかし、実際にはこれらの植物は多年草で地上に出ている期間が春から夏の初めと短いだけで、短期間に死んでしまう訳ではありません。落葉広葉樹林で林床に差し込む光を効率よく光合成に利用するため、春植物は春先に地上に葉を展開するので、夏になるにつれ、上木の葉が広がって林床は日陰になってしまいます。そのため、春先にでんぷん（エネルギー）を稼いで、夏には葉を枯らして地中で眠りにつきます。

一方、植物は光合成でエネルギーを稼ぐだけでなく、花をつけ、結実まで行う必要があります。結実するためには受粉が必要ですが、春先はまだ花粉を運んでくれる昆虫は多くありません。春植物は様々な工夫をして送粉昆虫を集めています。春植物の見どころをいくつかご紹介しましょう。





写真3：カタクリ

**カタクリ**  
 カタクリ(写真3)は片栗粉で御馴染みです。今の片栗粉の原料はジャガイモに置き換わっていますが、昔は細長い地下茎球根からでんぷんを取り、これを片栗粉として使用していました。カタクリの仲間には北米に多く、ピンクのほか、黄色や白色の花をつけるものもあります。カタクリは北海道から九州まで丘陵地に分布し、しばしば群生地を作ること、人々を魅了します。花は斜め下を向いて咲きます。初めのうちは天気の良い朝に花を開き、夕には閉じることを繰り返しますが、だんだんと開きっぱなしになっていきます。6本の雄しべには長短があり、時間差で葯が裂開し、開花期の間、花粉が持つていかれやすい状況が持

続するようになっています。また、自家

受粉を避けるため、雌しべは遅れて伸びます。花の奥に蜜があり、マルハナバチの女王蜂やチョウ蝶も訪れます。訪花するチョウの中でも、ギフチョウ、ヒメギフチョウはこの時期にのみ羽化してくるチョウで、蜜資源をカタクリに大いに頼っており、共生関係を築いています。カタクリの果実は5月から6月に成熟し、種子が散布されます。種子にはエラエオソムという脂質と糖分に富んだ淡黄色の器官がついています。アリはこれを餌として好むため、カタクリの種子を巣に持ち帰っていきます。このようにカタクリの種子が移動することで、群落を広げることができるとです。

丘陵地の落葉広葉樹林(里山)はかつて薪炭や緑肥として利用されていたため、林内の低木やササが刈り取られ、また、上木も定期的に切り倒されるために、林床は明るく保たれ、カタクリに好適な環境でした。エネルギー革命以降、このような落葉樹林の手入れが行われなくなり、常緑低木やササが茂り、カタクリなどの春植物は住みにくくなっています。

**ウツギ**



写真4：ウツギ

ウツギ(写真4)は林縁や明るい林内に生える低木です。ウツギは空木と書き、枝を割ると中が空洞になっていることから、この名前が付いています。○○ウツギと名の付く植物はいくつかありますが、必ずしも系統が近い訳ではなく、いずれも枝が空洞という特徴からその名が付いています。ウツギの別名は「卵の花」で、旧暦の四月を指す卯月も卵の花が咲く月ということでも名づけられた、という説が有力です。日本人にとって春から夏に移るいゆく季節を感じさせる代表的な花だったのでしょう。ウツギの近縁種で、よく見かける種には、ヒメウツギとマルバウツギがあります。ヒメウツギはウツギよ

り1週間ほど早く咲き始めます。マルバウツギは、ヒメウツギやウツギより花期が遅く、5〜6月に咲きます。また、ウツギやヒメウツギが林縁や土手など明るいところを好むのに対し、マルバウツギは林内に生育する特徴があります。

**鳥を探して**



春の森は鳥でとても賑やかになります。それは、シベリア方面から日本で越冬するために渡ってくる冬鳥、夏に日本で繁殖するために渡ってくる夏鳥、南方から北方に向かう途中日本に立ち寄る旅鳥、日本国内で移動する漂鳥、ほぼ同じところに一年中みられる留鳥、が交錯するためです。春は繁殖の始まる季節ですので、雄は雌にアピールし、なわばりを宣言するため、目立つところに出てきて盛んにさえずります。特に、冬鳥が渡り去る前にさえずることがありますが、その声は普段は聞くことができない珍しいものです。

私は渡り鳥の状況を調べるため、環境省の捕獲許可を得て、札幌羊ヶ丘の森林総合研究所北海道支所内実



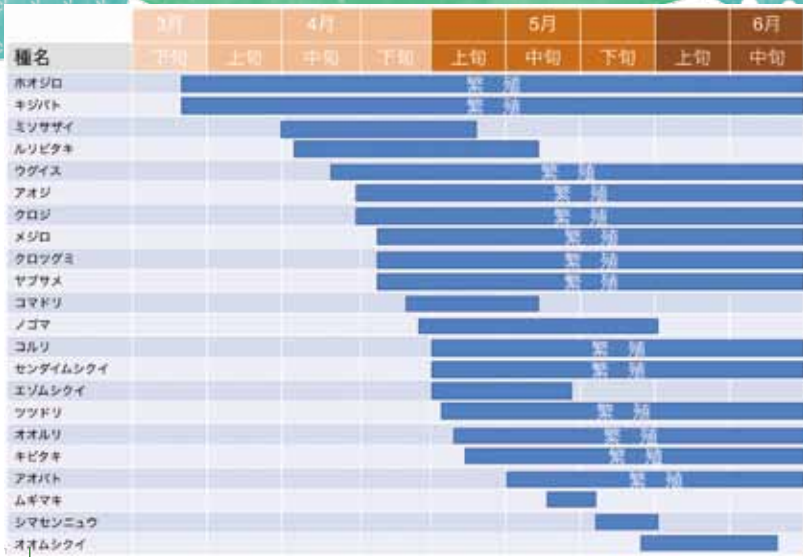


図1：札幌羊ヶ丘の春季渡り鳥の季節暦

験林で、鳥を捕獲し、アルミ製の足環を装着して放す標識調査を行っています（写真5）。標識調査では、目視では見つけにくい種類や、性別、年齢の情報も得ることができません。このような調査と目視や鳴き声などを観察し、渡り鳥の状況をモニタリングしていると、渡ってくる時期は鳥の種類によってほぼ決まっていることが分かります。

毎年、3月末に、ホオジロ、キジ



写真5：札幌羊ヶ丘調査地

バト、4月10日頃にミソサザイ、ルリビタキ、それ以降にウグイス、アオジ、クロジ、メジロ、クロツグミ、ヤブサメが、4月20日頃にはコマドリ、ゴルデンウィークに入るとコルリ、センダイムシクイ、エゾムシクイ、ツツドリ、オオルリ、キビタキなど次々と到着します。本来森林性ではないノゴマもこの頃林内を通過していきます。ゴルデンウィーク後はルリビタキの渡来数はぐっと減り、5月15日頃にはなくなります。その頃になると今度はアオバトが飛来し、「アオーアオー」という独特の声がかかるようになります。5月15日過ぎになるとムギマキやマミジロが通過していきます。5月25日頃になるとようやくエゾセンニュウやシマセンニュウが通過していきます。最後に、5月末から6月上旬にかけてオオムシクイが通過していきます。

### ルリビタキ

1種類の鳥の中でも雌雄や年齢によって渡ってくるタイミングが異なります。その1例を挙げましょう。ルリビタキは亜高山帯で繁殖し、羊ヶ丘では春と秋に通過していく体長15cmほどの小鳥です。雄の成鳥は名前の通り瑠璃色をしている一方、雌の成鳥や幼鳥（注：ここでは生まれてから翌年の繁殖期に至るまでを幼鳥と呼びます）は褐色の地味な色をしています。スズメ目の雄幼鳥の多くは、生まれた翌年には雄成鳥と同じ羽色になりますが、ルリビタキは例外的に生まれた翌年の春も、雌と同様の羽色を保っています。2010年春季のルリビタキの渡り状況を図2に示します。雄成鳥、雌成鳥と雄幼鳥（前年生まれたの個体）、雌幼鳥とピークがずれていき、雌雄や成幼で渡りの時期がずれていることが分かります。これは成鳥の雄がいち早く繁殖地について縄張りを確保して、雌の到来を待ち構える必要があるためと考えられます。幼鳥でも雄の特徴（肩羽に青みがでる、腰の瑠璃色が鮮やか）がよりはっきりしている個体ほど渡り時期が早い印象があります。雌性

ホルモンの分泌量と渡り時期の速さは関係があるのかも知れません。

### ウグイス

春らしい鳥の話題としてウグイスを紹介しましょう。ウグイスの「ホーホケキョ」というさえずりはお馴染みですが、本州では冬の間も里に下りていて数の中で生活しています。この時期は雌雄とも「チャッチャツ」とササ鳴きという声で鳴きます。ウグイスは春鳥、春告鳥と呼ばれ、春の到来を告げるものとして古来より親しまれており、和歌や俳句などでよく詠まれています。

ウグイスの特徴として、尾羽が10

2010年のルリビタキの渡り状況

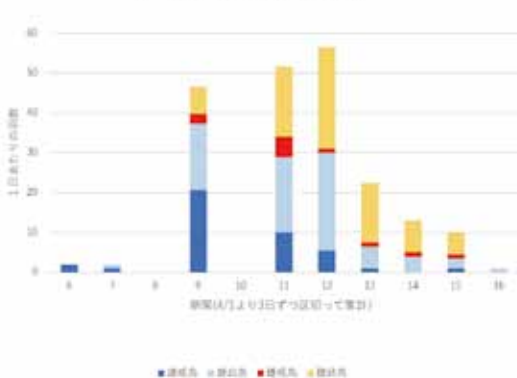


図2：ルリビタキの雌雄・成幼による渡り時期の違い





写真6：ウグイス（左）雌成鳥（右）雄成鳥



写真7：冬を乗り越えたテングチョウ



写真8：エゾエンゴサクを訪花するピロードツリアブ

枚しかありません。日本で分布するスズメ目の小鳥の尾羽は、ヤブサメとウグイスを除いて全て12枚です。また、ウグイスは雄雌で大きさに顕著な差があり、雄は16cm、雌は13cmほどと野外で見てもわかります（写真6）。標識調査の折にウグイスの足に指をつかまれることがよくあるのですが、雄の場合は痛く、雌が優しく感じられます。スズメ目の小鳥で

は雄が雌より少し大きな傾向があるのは普通ですが、これほど極端な例はありません。Chiba(2014)によれば、雄は夏に首周りの筋肉などが顕著に発達し、格別大きな声で鳴くことができるので、繁殖上有利となり、その結果、雌雄の体格差になったと推定されます。

### 虫を探して

春になると虫も動き出します。チョウにとつて冬をどう過ごすかは大きな問題です。卵・幼虫・蛹以外にも成蝶の姿のまま樹洞などで越冬する種もあります。春先のほんの少し暖かくなつた時期に出会うチョウを見かけると、よくこの冬を乗り切つて



きたと愛おしい気持ちでいっぱいになります。里山でよく見かける越冬チョウにはテングチョウ（写真7）があります。テングチョウは頭部が尖つて伸びており天狗の鼻を想像させることから、名前の由来となりました。他にもキベリタテハ、クジャクチョウ、ウラギンシジミなども里山で見られる越冬チョウです。ちなみに先ほど紹介したギフチョウは地面の枯葉の裏で10カ月もの間、蛹で過ごし春先に羽化します。

春植物の紹介の中で、送粉昆虫の重要性について触れました。特に、マルハナバチは、自ら体を温めて比較的低温で活動ができるため、送粉者として花々にとって大切な存在です。マルハナバチも種類によって、

活動を始める時期や好む環境が異なります。オープンな場所や林縁など明るい森林を好む種、密な暗い林内を好む種などいろいろです。植物にとつてありがたいマルハナバチです

が、中には花の奥に貯まった蜜を正面から吸わず、外側から食い破つて盗っていく悪質なものがいます（写真8）。植物にとっては正面から蜜を吸ってもらうことで花粉が虫の体について運ばれるのに、横から盗蜜されてはたまつたものではありません。エンゴサクやスミレなど花被が壺状の構造を持つ植物が被害にあつています。特定外来種であるセイヨウマルハナバチによる被害も目立っていますので、外来種問題を考えるきっかけとなります。

### おわりに

春の森にはまだまだ色々な秘密が隠れています。ぜひご自身で森を散策しながら、そうした秘密を探ってみてください。ただし、散策に夢中になって足を踏み外さないこと、またクマやイノシシなどの動物、そして最近増えているマダニには十分に注意して、楽しんでください。



参考文献

Chiba A, Ueda H, Imamishi S (2014) Physical Traits of Male Japanese Bush Warblers (*Cettia diphona*) in Summer and Winter: Hypoactive Aspects of the Vocal System and Leg Muscles in Summer Males. Zoological Science, 31 (11) :741-747.





# ウッド・チェンジに向けた 建築物木材利用促進協定の活用について

昨年6月、建築物における木材利用の更なる促進に向けて、「公共建築物等における木材利用の促進に関する法律」が改正され、昨年10月に「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」として、施行されました。

今回の法律改正によって、事業者等による建築物での木材利用に関する取組を国や地方公共団体が後押しする仕組みとして、建築物木材利用促進協定制度が創設されました。事業者等は、自らの建築物での木材利用や木材利用の促進に関する構想を実現するため、国や地方公共団体と協定を締結することができます。この協定制度を活用して、多様な主体による木材利用の取組が始まっています。3月9日、事業者団体や企業と国との間で、新たに4件の協定が締結されました。

## 木材利用拡大に向けた環境整備に関する建築物木材利用促進協定

一般社団法人全国木材組合連合会は、都市等における木造化・木質化を推進するために必要となるJAS製品等の普及拡大、木材利用の意義等に関する普及活動の推進に取り組

むこと等を内容とする協定を農林水産省と締結しました。

## 大工技能者の育成と地域工務店等による木材利用に関する建築物木材利用促進協定

全国建設労働組合総連合は、大工技能者のキャリア教育としての全国青年技能競技大会の開催、大工技能者への関心を高める活動、大工技能者等の担い手確保・育成と地域工務店等による木材利用の促進に向けた農林水産省・国土交通省との定期的な情報共有・意見交換等を行うことを内容とする協定を農林水産省及び国土交通省と締結しました。

## 地域材の利用拡大に関する建築物木材利用促進協定

野村不動産ホールディングス株式会社は、地域材の利用の推進や木材利用の意義やメリットについての情報発信等に取り組みくと、また、ウイング株式会社は、木材の供給体制を整えて木材の供給を適時に行うよう努めること等を内容とする協定を農林水産省と締結しました。

## 国産材の利用拡大に関する建築物木材利用促進協定

株式会社アクトは、施主に木造化・木質化の提案を進めて国産材の普及促進に努めること、木材利用の意義やメリットについての情報発信に取り組みこと等を内容とする協定を農林水産省と締結しました。



農林水産省で開催した建築物木材利用促進協定締結式の様子



また、地方自治体でも協定の締結が行われています。

### ふくい県産材利用推進に関する協定

昨年10月、**福井県経済団体連合会**は、森林整備の促進や二酸化炭素の固定を図るなどSDGsの達成や脱炭素社会の実現に努めるとともに、地域産業の活性化に寄与するとの構想を実現するため、**福井県**と協定を締結しました。



福井県と福井県経済団体連合会との協定締結

### 木材の利用促進と教育に関する協定

昨年12月、**学校法人立命館**は、大分県内で初となる木造3階建ての準耐火建築物である教棟に地域材を積極的に活用するとともに、木材利用の意義等を教育・啓発することに取り組みこととし、**大分県**と協定を締結しました。

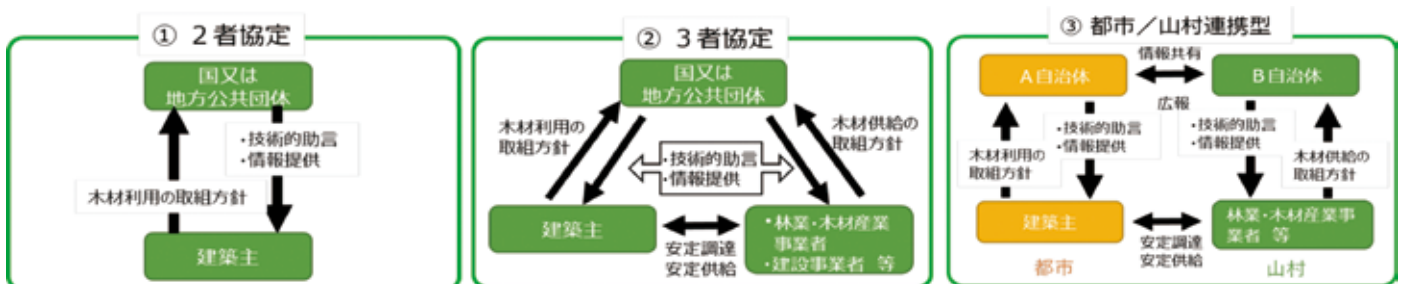


大分県と学校法人立命館との協定締結

紹介しました6つの協定の他、これまでに、公益社団法人日本建築士会連合会と国土交通省との協定、公立大学法人 大阪及び竹中工務店・安井建築設計事務所グループと大阪府及び大阪市との協定も締結されています。

この協定制度は、建築主だけでなく林業・木材産業事業者や建設事業者も参画した協定とすることで、木材を供給する側と使う側が直接つながり、供給する側にとっては需要量の見通しがつきやすくなり、使う側にとっては木材の安定的な調達が見込めることから、信頼関係をもって建築物での木材利用に取り組めるようになるといったメリットもあります。

今後、このような3者以上の主体が参画した協定や都市部と山村地域との連携につながる協定など、多様な取組が数多く展開されることが期待されます。





# 令和4年全国山火事予防運動

林野庁では、3月1日から7日まで「山火事を 防ぐあなたの 心がけ」を統一標語として、「全国山火事予防運動」を実施し、全国で山火事予防意識の高揚を図る取組や、森林パトロール等の実施を呼びかけます。

山火事の発生（写真提供：近畿中国森林管理局）

## 春は山火事にご注意ください

例年、冬の終わりから春にかけて、特に、三月～五月は多くの山火事が発生しています。

この時期は、空気が乾燥し、森林内の枯草や落葉が燃えやすい状態になっています。これに強風等の条件が重なると、小さな火の不始末から大きな山火事となる危険性が非常に高くなります。

また、日本の山火事の発生原因の多くが人為的なものです。山菜採り等で山に入る機会も増えることから、たき火の管理やたばこの火の不始末などにも注意が必要です。

昨年は、栃木県足利市など、住宅地のすぐそばで発生した山火事が社会的に大きく注目されました。

山火事は一旦発生すると、消火は容易ではなく、また、長い年月をかけて育てた貴重な森林を一瞬にして失うこととなります。

一人ひとりが火の用心を心がけ、日本の素晴らしい森林を守り、後世に引き継いでいきましょう。



今年のポスターには、兵庫県加古川市立氷丘中学校2年の田尻舞子さんの作品が、標語には、香川県三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校3年の久保文乃さんの作品が選ばれました。



山火事予防パレード出発式（写真提供：青森県）

## 【近年の山火事の発生状況】

区分／年次	H28	H29	H30	R元	R2	平均 (H28～R2)
出火件数 (件)	1,027	1,284	1,363	1,391	1,239	1,261
焼損面積 (ha)	384	938	606	837	449	643

資料：消防庁統計資料より作成

出火件数と焼損面積を1日あたりに換算すると、全国で毎日約3件発生し、約2haが焼失していることになります。





地上消火活動 (写真提供：宮崎県)

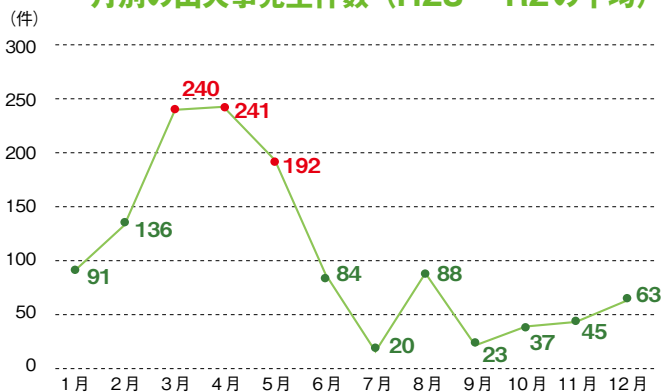


空中消火活動 (写真提供：中部森林管理局)



山火事後の林内 (写真提供：栃木県)

### 月別の山火事発生件数 (H28 ~ R2の平均)

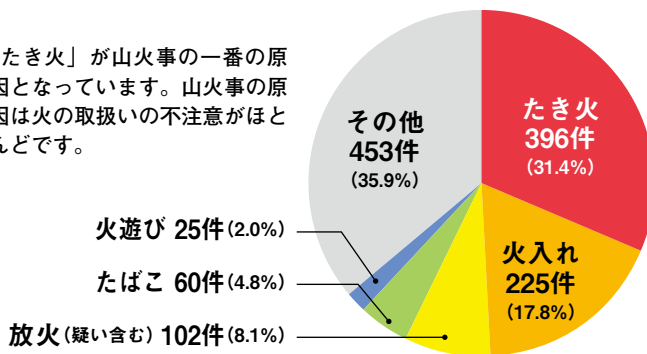


資料：消防庁統計資料より作成

例年、山火事の半数以上は3～5月に発生しています。

### 出火原因別発生件数 (H28 ~ R2の平均)

「たき火」が山火事の一の原因となっています。山火事の原因は火の取扱いの不注意がほとんどです。



資料：消防庁統計資料より作成

#### 林野庁からのお願い

- ① 枯草等のある場所は火災が起こりやすいので、たき火をしないこと
- ② たき火など火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること
- ③ 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと
- ④ 火入れをする際は、市町村長の許可を必ず受けること
- ⑤ たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと
- ⑥ 火遊びはしないこと



山火事防止のシンボルマーク「まといリス」

山火事に備えよう！



# 森林保険



火災



森林保険は、森林所有者を被保険者として、森林についての上記8つの災害による損害を総合的に補償する保険です。山火事防止と併せて、リスクへの備えとしてご検討下さい。

◆森林保険のお問合せ◆ お近くの森林組合、森林組合連合会、または森林保険センターへ (国研) 森林研究・整備機構森林保険センター (代表) 044-382-3500





# 国際熱帯木材機関（ITTO）をめぐる動き

## 第57回理事会の開催、持続可能な木材利用の促進に向けたプロジェクト

国際熱帯木材機関（International Tropical Timber Organization：ITTO）は、熱帯林の持続可能な経営の促進と持続的かつ合法的に生産された熱帯木材の貿易の発展を目的とする国際機関です。ITTOは、1986年に設立され、横浜市に本部を置いており、現在、生産国と消費国の73か国及びEUが加盟しています。

本稿では、昨年（2021年）開催された第57回ITTO理事会の結果と、持続可能な木材利用の促進に向けたプロジェクトについて、ご紹介します。

### I. 第57回ITTO理事会の結果

ITTOは、毎年、全加盟国の参加による「国際熱帯木材理事会（ITTC）」を開催して、具体的な活動内容等を決定しています。昨年11月に、第57回理事会がオンラインで開催され、主に以下の点が決定されました。

#### 1. 次期事務局長の選出

ITTOの前事務局長は、2021年3月に任期終了となり、その後、空席となっていました。今次理事会では、公募プロセスから絞り込まれた3候補のプレゼンテーションが行われました。

最終的に、加盟国のコンセンサスにより、マレーシアのシャーム・サックル氏が新事務局長に決定されました。同氏は、英国での企業内弁護士を経て、マレーシア木材協議会（MTC）で国際貿易の専門家として要職を

歴任したのち、2017年からITTO事務局次長（組運営担当）を務めてきました。同氏は、本年2月に着任して、任期は2026年1月までとなっています。

#### 2. 「国際熱帯木材協定」の延長

今次理事会では、ITTOの設置根拠である「2006年の国際熱帯木材協定」の規定に基づき、有効期間を2026年12月まで5年間延長することが決定されました。

#### 3. 任意拠出金の拠出表明

プロジェクト等への任意拠出金として、我が国や米国等から合計約380万米ドル（約4.1億円）の拠出が表明されました。我が国からは、全体の22%を占める約85万米ドル（約93百万円）の拠出を表明しました。このうち、林野庁からは、ベトナムにおける持続可能な木材消費促進のプロジェクト（後述）のほか、コストリカとマレーシアにおける計3つのプロジェクトに約68万米ドル（約74百万円）の拠出を表明しました。

### II. 持続可能な木材消費の促進に向けたプロジェクト

#### 1. 持続可能な木材利用の意義

木材は、再生可能な天然資源です。木材の利用は、①木材を住宅や家具等に利用することにより、木材

### プロジェクトの概要

- 【事業名】 ベトナムにおける持続可能な木材消費の促進
- 【拠出額】 339,500米ドル（約37百万円）
- 【実施機関】 ベトナム木材・林産物協会（VIFOREST）
- 【実施期間】 24ヶ月（2021年12月開始）
- 【事業内容】
  - 木材消費促進のための政策枠組みの改善・整備
    - ・長伐期森林経営への移行戦略作成
    - ・国内木材消費を促進するための関係者の組織化 等
  - 木材消費促進のための実証的取組・能力向上
    - ・持続可能な木材としての植林木の利用促進キャンペーンの実施
    - ・建築を専攻する大学生向け木造建築・デザイン研修
    - ・日本のスギ・ヒノキとベトナムのアカシアを利用したデザインコンテストの開催 等

\*上記の事業実施に当たっては、適宜、我が国から、国内での木材利用促進政策の経験を踏まえた助言を提供します。





新たに事務局長に選出されたシャーム・サックル氏  
(写真撮影:国際持続可能な開発研究所(IISD) Earth Negotiation Bulletin)



中の炭素を長期間にわたって貯蔵する「炭素貯蔵効果」、②鉄等の資材に比べて、製造や加工に要するエネルギーが少なく製造・加工時のCO<sub>2</sub>の排出量を抑制する「省エネ効果」、③「カーボンニュートラル」な特性を有している木材のエネルギー利用により、化石燃料の使用を抑制する「化石燃料代替効果」の3つの効果により、脱炭素社会の実現に貢献します。

## 2. 木材生産国における木材消費拡大の意義

今般のコロナ危機では、木材輸出に依存する多くの木材生産国が、輸出先国での需要減退により、深刻な経済的打撃を受けました。

これに対して、ITTOは、「加工度の低い木材製品の輸出への依存は見直すべき。過去の経済危機でも、国内消費は、熱帯木材生産の安定化に有効であることは明らか」として、木材生産国における輸出依存の見直しと国内消費の拡大を提唱しています。

## 3. 我が国における木材利用拡大の経緯

我が国は、2005年から、官民連携と政策的取組により、木材利用の機運を急速に高めてきました。

官民連携としては、木材利用の意義を広める国民運動「木づかい運動」を展開し、消費者目線で木製品等を表彰する「ウッドデザイン賞」や「木育」等の取組を支援してきました。2019年には、官民が連携して建築物に木材が利用しやすい環境づくりを目指す「ウッド・チェンジ・ネットワーク」を設立、2021年に「ウッド・チェンジ協議会」に発展させ、企業や団体の参画の下、木材利用における課題解決に向けた検討や低層小規模建築物や中規模ビルの木造モデル設計の検討等を進めています。

また、政策的取組としては、2010年に、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」を制定し、これにより、公共建築物の木造化・木質化を

進めてきました。同法は2021年に改正され、国の基本方針等の対象が民間建築物を含む建築物一般に拡大されています(本誌トピックス01参照)。

## 4. ベトナムにおけるプロジェクトの開始

ベトナムの木材産業は、過去20年間、輸出に依存して急速に成長してきました。同時に、天然林の利用からアカシアによる人工林の経営に移行してきましたが、短期・低付加価値のチップ材生産に留まっています。

同国は、コロナ禍で輸出依存の不安定性が明らかになったことをきっかけに、輸出依存からの脱却と人工林資源の有効利用に向けて、国内における持続可能な木材利用を促進しようとしています。

これを受けて、林野庁は、先の理事会で、ITTOを通じて、ベトナムによる持続可能な木材消費促進プロジェクトへの支援を開始することを表明しました。このプロジェクトは、木材消費促進のための政策的枠組みの改善・整備と、木材消費促進のための実証的取組・能力向上を行います。本プロジェクトは、昨年12月に始まり、2年間実施される予定です。我が国からも、これまでの木材利用拡大の経験を踏まえて、助言を提供する予定です。

## III. 終わりに

令和4年度には、「『日本型木材利用システム』普及支援事業」により、ベトナムに続き、他国においても、持続可能な木材利用の促進に向けたプロジェクトへの支援を展開する予定です。

引き続き、ITTOへの支援を通じて、持続可能な森林経営の推進と木材生産国における持続可能な木材消費の促進に貢献してまいります。

\* ITTOの詳細は林野庁ウェブサイト参照

(<https://www.rinyamaff.go.jp/j/boutai/yunyuu/itto.html>)





# 郡上森林マネジメント協議会を核とした 林業成長産業化の推進

## 1 郡上市の森林・林業の概要

郡上市1市で構成される当地域は、岐阜県の中央部を流れる清流長良川の上流に位置し、市の総面積10.3万haの9割を山林が占める林業地です。民有林面積は9万haで、そのうち人工林は5万ha、人工林の49%をスギが占めており、その約9割が標準伐期齢以上に達している状況にあります。

市では適正な林分配置を目指して、平成29年度から郡上市独自の森林ゾーニング（図1）を設定し運用を開始しました。

平成27年に市内に大型製材工場が稼働したことで木材需要が高まっており、また、建設予定の木質バイオマス発電施設による需要の高まりも見込まれることから、木材生産をさらに拡大するとともに、広大な森林を如何に適正に管理するかが課題となっています。



図1 2軸4象限の森林ゾーニング

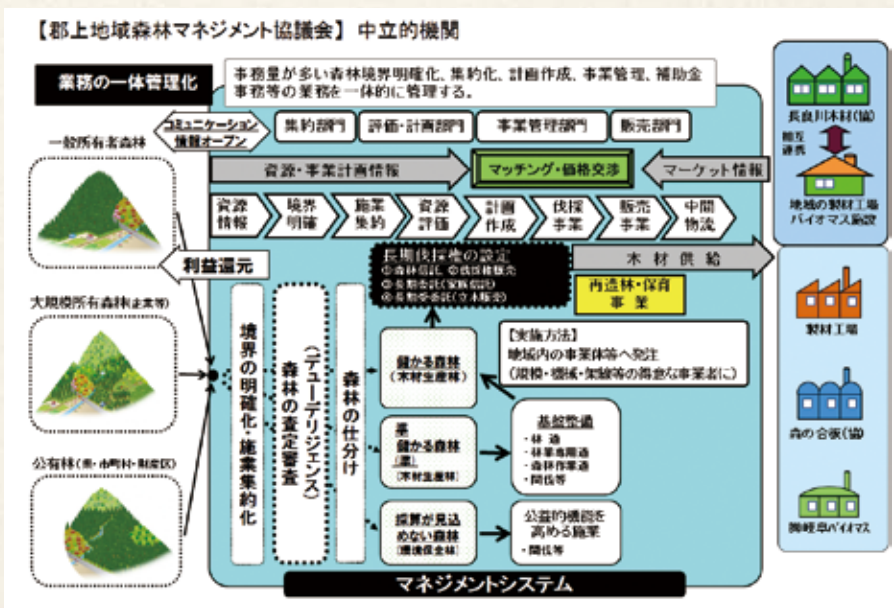


図2 郡上森林マネジメント協議会の概要



## 2 郡上森林マネジメント協議会の設立

平成29年度に郡上地域の林業・木材産業の成長産業化を目指すモデル構想が策定され、その構想を進める推進組織として、平成31年2月に川上から川中、川下までが連携・参画した中立的機関として郡上森林マネジメント協議会（以下「マネ協」という）が設立されました。

## 3 主な取組

### ① 災害リスクを考慮した森林経営管理事業の取組

平成31年4月の森林経営管理制度スタートにあたり、郡上市では地籍調査の実施率が5%と低く、意向調査をどこから進めていくかが課題となっていました。そこで、前記ゾーニングと森林経営計画の策定の有無や過去10年の施業履歴をもとに、森林経営管理制度における最優先の候補地を37箇所に絞り込み、災害リスクを点数化しました。点数の高い箇所

かつ民家や公道沿いの森林から事業を実施する方針を決定したことで、制度開始後は意向調査を着実に進めることが出来ました。

### ② 木材生産の拡大と再造林対策

市内の大型製材工場等において木材需要が高まっていることから、素材生産量を拡大できるよう、民間林業事業者等への高性能林業機械導入を促進しました。その結果、平成30年度から令和2年度の3年間に8社が計17台を導入しました。

また、令和元年から2年には延べ8社に対して生産性・安全性向上研修を実施しました。これにより、地域の木材生産量は平成29年度の103千m<sup>3</sup>から令和2年度には114千m<sup>3</sup>に増加し、生産性は4.88m<sup>3</sup>/人日から6.89m<sup>3</sup>/人日に向上しました。

また、素材生産量とシステム販売が増加したことから、中間土場を整備するとともにロクログローダ2台を導入し、流通の合理化を進めました。

当地域では、皆伐は森林組合以外の林業事業者、再造林は森林組合が行うケースが多いのですが、主伐後の再造林対策として、皆伐予定地を早期に森林経営計画に取り組むことを目指して、令和3年度に森林経営計画制度等の勉強会を開催しました。今後とも皆伐を行う民間林業事業者と再造林を担う森林組合の連携を一層強化していく方針です。

また、当地域ではサプライチェーンマネジメントシステムの構築にも取り組んでいます。郡上森林組合（生産量50千m<sup>3</sup>/年）では、各種現場管理書類で行っており事務が煩雑だったことからこれを見直し、令和3年度にタブレットにより日報等を現場で入力し、



大径材の根張加工機械

生産量をリアルタイムで管理するシステムを導入し、事務の効率化を図っています。また、令和4年度には、トラックの配車システムもアナログからデジタル化して関係者に「見える化」するソフトを導入する計画です。

### ③ 加工流通効率化対策

今後、より一層増加が見込まれる大径材（末口径40cm以上）を加工できる機械を、大型製材工場に新たに増設しました（図3）。

## 4 今後の取組

森林経営管理制度や、主伐・再造林の推進など、今後ますますマネ協の役割は大きくなっていきますので、マネ協の参加団体の連携を強化するとともに、組織強化を図り、郡上地域の林業成長産業化を一層推進していく方針です。

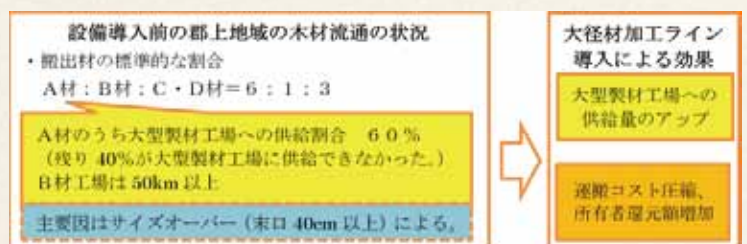


図3 大径材加工ラインの効果



新規導入プロセッサ



生産性向上研修



# 赤谷プロジェクトにおける「赤谷の日」のサポーター活動について

関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター

## はじめに

関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センターでは、日頃よりニホンシカの低密度管理のための対策、イヌワシの狩場の創出、自然林の復元、溪流環境における生物多様性の復元、森林環境教育、イベントの開催など様々な取組を行っております。今回は、「赤谷プロジェクト」とその一つである「赤谷の日」について紹介します。

## 赤谷プロジェクト

2003年11月に発足した「赤谷プロジェクト」は、群馬県みなかみ町の北部、新潟県との県境に広がる約1万ヘクタールの国有林「赤谷の森」を舞台に、地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会、公益財団法人日

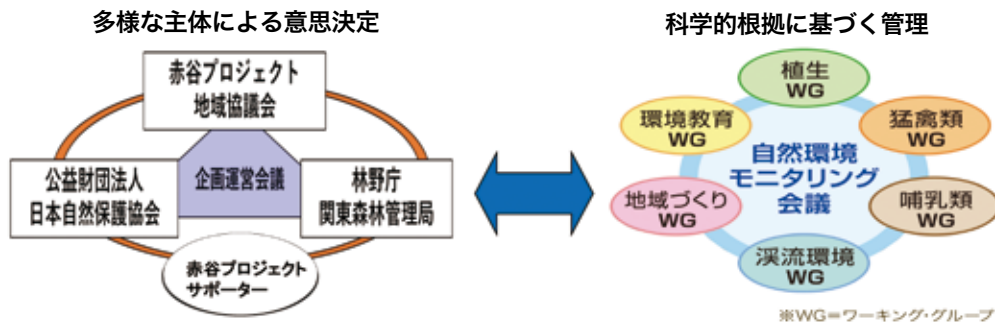


図1 「赤谷プロジェクト」の仕組み

## 管内概要

「赤谷の森」は、群馬県みなかみ町の北部、新潟県との県境に広がる、標高600m～2,000mに位置する約1万ヘクタールの国有林です。ブナ・ミズナラなどの原生的な自然林、炭焼きなどに利用してきた二次林、スギやカラマツの人工林など、植生は多様です。本州に生息する中・大型哺乳類のほぼ全てが見られ、食物連鎖の頂点に位置し、生物多様性の指標となるイヌワシやクマタカといった猛禽類も確認されています。「南ヶ谷湿地」には、希少種の生息が確認され、また県境の稜線部には、高山植物が多数見られるほか、谷川連峰や赤谷の森の絶景を楽しむことができます。



### 基礎データ

所在地	群馬県沼田市鍛冶町 3923-1
赤谷の森	9,509.64ha (国有林)
関係県・自治体	群馬県利根郡みなかみ町





図2 サポーター募集の案内

赤谷プロジェクトは、森林をはじめとする自然環境に、人々が広く主体的に関わることを目指しており、赤谷プロジェクトの理念に共感し、その推進に協力してくださる方、ボランティアな立場でプロジェクトの活動に加わってくださる方、公益を担う意識を持って活動することを自覚してくださる方を重要な構成員・サポーターと位置付

## 赤谷プロジェクト・サポーター

本自然保護協会、関東森林管理局の3つの組織が協力して、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を進める取組です(図1)。実施に当たっては、科学的根拠に基づき森林生態系の管理を目指し、専門家からなる複数のワーキンググループと全体の方針を決める自然環境モニタリング会議を組織しています。



## 赤谷の日



け、参加いただいています(図2)。通常、人は、日々のくらしの中で自然と深く触れることはありません。また、森林のような複雑で多様なものには、専門的な知識や経験が必要なことも多いので、専門家の指導を受けて、様々な考え方や価値観を持ったサポーターが、気軽に参加し、また自ら企画して活動する、そのような「場」や「機会」を提供することが重要と考えています。

赤谷プロジェクトでは、サポーターの取組の一つとして、毎年3月から12月(冬期を除く)の毎月第1週の土・日曜日を「赤谷の日」と名づけ、赤谷プロジェクト関係者とサポーターによる協働の活動を行っています。主な活動は、拠点である「いきもの村」を中心とした施設の環境整備や伝統技術の体験、動植物の調査などです。当センターを含むプロジェクトの3つの組織が交代で活動の運営を担当しています。

2021年は、「いきもの村」の環境整備のほか、炭焼

## 「赤谷の日」活動の様子



4月 クロサンショウウオの卵塊調査



5月 三国山シカ防護柵を設置



7月 南ヶ谷湿地のアシ刈、昼食の様子



11月 ムササビの巣箱修理



12月 イヌワシの観察会



12月 桐の保護ネットを設置

き体験用の窯の改修、試験的な桐の育成、ニホンジカの植生への影響調査とその対策、ノウサギの生息数推定調査、ホンドテンの食性分析調査、南ヶ谷湿地の保全活動とその周辺の動植物の調査など、様々な活動を行いました。特

に後の2つは、サポーターの皆さんが自主的に企画されたものです。しかし、残念ながら新型コロナウイルス感染症対策のため、2020年度以降の赤谷の日の活動は大幅な縮小を余儀なくさ

れました。今後は、この事態が収束することを願いつつ、サポーターの新規募集を進め、より魅力的な活動になることを目指して引き続き取り組んでいきたいと考えています。

※日々の活動はウェブサイトに掲載しておりますので是非ご覧ください。  
[https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\\_fc/index.html](https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html)



# 「2022ミス日本みどりの女神」が誕生！



## プロフィール

**出身地** 神奈川県  
**趣味** 絵を描くこと／カメラ  
**特技** 料理、書道

1月24日、「第54回ミス日本コンテスト2022」が都内で開催され、11名のファイナリストからミス日本グランプリほか各賞の受賞者が決定しました。「2022ミス日本みどりの女神」は成田愛純なりたあすみさん(19)です！

みどりの女神は、ミス日本各賞の一つで、これからの1年間、森林の大切さや木の文化の素晴らしさを伝え、みどりと木への親しみを広める役割を担います。今後は歴代の女神と同じように、ヘルメットと作業服を身に纏い、林業の現場に赴いたり、全国各地の行事に参加して、広く森林・林業・木材産業をPRしていきます。

皆さま、初めまして。今年1月のミス日本コンテストにおいて、みどりの女神に選んでいただきました。成田愛純と申します。

私は女優・モデルとして活動しております。出身は神奈川県川崎市で周りには緑豊かな場所が多く、自然に囲まれて育ちました。幼い頃から生き物が大好きで、夏には蝉を捕まえたり、近くの林から飛んでくるカブトムシやクワガタを育てたりしていました。また外遊びも大好きで、木登りをしたり、裸足で草むら进行り回ったり、泥遊びをしていました。そのおかげでしょうか、小さく生まれ細くて弱かった私が自然の中で遊ぶようになって、風邪ひとつひかなくなり、体が丈夫





衆議院議長公邸へ表敬訪問しました



2022ミス日本コンテストにて  
2021ミス日本みどりの女神の小林さんと



森の中で遊ぶ幼いころの私



金子農林水産大臣を表敬訪問しました

になりました。自然には目に見えない不思議なパワーを感じます。

成長した今でも時間があれば近くの森や川に赴き、木の葉の揺れる音や川のせせらぎに癒されてパワーチャージしています。森林大国である日本の木々は、四季によって春は桜色、夏は深緑色、秋は紅葉色、冬は雪色と本土をカラフルに染めて目でも楽しませてくれます。私はフィルムカメラが趣味なので、その映像を写真に残し、時々見返しては何度も楽しみます。

ファイナリストの勉強会の講義の中で林野庁の服部広報官、国土緑化推進機構の林部長にお話を伺い、この美しい景色は当たり前にあつたわけではなく、長年の国土緑化運動でたくさんの方の手が加わり、地道で大変な努力があつたからこそ守られてきたものであることを学びました。そしてただ木を植えて育てるだけでなく、収穫し使うことで森林資源を持続的に利用していくことができるということも教えていただきました。ただ普通に暮らしているだけでは気づけないこと、学ぶべきことがまだまだたくさんあると実感しました。

日本のさまざまな場所で今もなお続いている、日本の森林を守るための取り組みがどのようなものであるのか、実際にその場所へ赴き、自分の目で確かめ、学びたいと思います。そして今の私たちの世代ができることは何か、何をすべきなのかについて自分なりに答えを出し、みどりの女神 成田愛純として発信していきたいと思っています。一年間どうぞよろしくお願いたします。





# 山火事予防

山火事を  
防ぐあなたの  
心がけ



令和3年度山火事予防ポスター企画・制作  
主催：(一財)日本森林林業振興会  
後援：文部科学省・消防庁・林野庁・  
全国森林組合連合会・森林火災対策協会

山火事予防運動実施中  
主唱：林野庁・消防庁

ポスター企画  
林業振興財団財団法人立派な学校文庫 田島 舞子  
後 援  
香川県立豊中高等学校校庭日京 三豊市華陽3年 3月 文乃

リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。



本誌に使われている紙は、  
日本の森林を育てるために  
間伐材を積極的に使用しています。

「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索



発行／林野庁 〒100-8952 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話 03-3502-8111(代) F A X 03-3591-6505  
編集／株式会社創言社 東京都千代田区飯田橋4-8-13 印刷／株式会社コームラ 岐阜県岐阜市三輪ぶりんんどぴあ3